

特別審査員審査コメント

アナウンス

加藤先生

自分でテーマを見つけ文章を考え、しかも写真も撮影し、原稿を読む練習を積まなくてはならないなんて本当に大変な作業をされていると思います。神奈川の出来事を伝えるとき初めてその話題に接する人にどう興味を持ってもらうか？聞いている人見ている人を思い浮かべながらどう伝えていったら面白いと思ってもらえるか？人に話したくなる情報がどうか考えながら組み立ててみてください。

安田敬一郎先生

言葉の表現にも体幹力（たいかんりょく）があります。

声 アクセント イントネーション 滑舌 意味のかたまり 強調
リズム 間（ポーズ）

などによって強化できます。体幹力が強まると、

失敗が少なくなります。（とちらなくなる）

自分が思い描いた表現ができます。（響きが生まれる）

継続が大事です。

内藤博之先生

今年は昨年以上にレベルの高いアナウンス部門の決勝でした。より一段上がったアナウンス技術を感じました。アナウンスメントの向上は日々の生活の中から見出すことが大切だと考えます。日常生活の中から感動したこと、関心を持ったことがすべて自分の感性になっていくのが高校時代です。感性を高め、今後もアナウンスメントに役立ててください。「ゆっくりしゃべること」難しいですがトライしてみてください。

朗読

坂本咲子先生

” 笑声 ” という言葉をご存じでしょうか？笑顔で話せば声も笑います。声と表情はつながるのです。（笑顔で怒るのは難しいですよネ）緊張している中ですから、顔がこわばってしまったり、真顔になってしまったり、それを表に出さないよう、ついぶっきらぼうな表情をしたりしてしまいます。しかし”作品に入れば大丈夫！”と思ったら大間違いです！！発表前からしっかり笑顔で！そして普段から自分の表情をきちんと意識してみましょ。自身の魅力もUPしてきますヨ。

古山あゆみ先生

口の奥の空間が狭い人が多い。奥歯と奥歯を離して。空間が狭いと、音がこもり、マイクのノリも悪く余韻が残りにくい。くちびる・舌・ともに筋力をつけよう！

スタジオ収録の際、実際にはスタジオ内に響くくらいに声を出します。マイクに頼りすぎないように。

単語にとらわれず、文章の流れをよく見て。感情の流れはその単語だけで表現できるものではないので全体的な流れを見てほしい。

A P

倉林由男先生

仕事柄、日々映像を見て音声を聞く仕事をしていると、改めて「放送」の人間一人ひとりに与える影響の大きさに驚かされます。学生諸氏には『人に感動を与えることができる』放送というものに心を開き、自分たちの感性を信じて、たっぷりの時間を使って、納得のいく作品を作っていただくようお願いします。

V M

佐藤博昭先生

私がよい映像かどうかを判断する基準は「この映像を誰かともう一度見たいか」と自分に問うた答えです。「是非見たい」「新味がない」「発見が少ない」などが、その答えです。メッセージがきちんと届いて私が共感・共鳴できたらきっと「もう一度だれかと見たくなる」と思います。自分に自信を持って堂々とメッセージを届けてください。

柴田紀之先生

V T Rを通じて人にものを伝えるのはとても難しいことです。もっと上手に伝えられるようになるには・・・

企画・構成をしっかり立てる。

何を伝えたいのか？何がこのV T Rの軸になるのか？構成はその構成を読んだだけで誰が見ても映像が思い浮かぶレベルまで精査されているか？

絵がわりを考える。

興味を持ってもらえるように、撮影場所を変えたり取り方を変えたりなどの工夫がされているか。

自分たちが面白いのか？楽しいか？（これが一番大事！）

作っている本人が面白くなく楽しくなかったら絶対に伝わりません。せっかく作るのだから楽しんで作ってください。